

担任から卒業生へ送る言葉

●1R 担任 大野 亜希子

ご卒業おめでとうございます。3年間を通して私の心のなかにあった思いは、自分の意見を持ち、相手にそれを伝えることができるひとになってほしいということでした。そのための授業の教材研究はとてもやりがいがありましたし、授業中の皆さんとのやりとりはなお刺激的でした。24Rでは一生懸命に意見を伝え合おうとしていましたし、14Rでは活発に意見を伝え合う姿を見ることができ、それが私の喜びでした。1Rでは現代シリーズに入ってからが特にみなさんの考えを知る機会となり、毎時間ワクワクしたものです。私は教員として、意見を持つために「考える」という習慣を授けることが出来たら、こんなに嬉しいことはありません。

そしてもうひとつ、ここで伝えたいです。どうか他者を受け入れる心を持つことを忘れずにいてください。国内外において様々な問題により緊張感が増す昨今、人を傷つけるのは人間、人を救うのも人間であると考えます。映画監督のアキ・カウリスマキの難民問題に切り込んだ作品では、異なる民族を批判するようなことはせず、人間同士のやり取りに私たちは笑いを誘われ、そこに人物に自己を投影し省みるのです。

自己を理解し、他者を受け入れる人間になってください。皆さん一人ひとりが、私の希望です。

●2R 担任 錦織 剛

『早朝の教室、電気をつけずに勉強している生徒がいます。毎日、「電気をつけていいよ。」と声をかけながら教室を見回っていますが、いまだに電気はついていません。わたしは、この光景が好きです。新しい生活の緊張が伝わってくるからです。…中略…高校生活の始まり、生活リズムの再構築に向けていいスタートを切ることができています。』

あかやまに1年学年主任のあいさつを寄稿してから3年が過ぎました。みなさん、卒業おめでとうございます。どうやって社会の役に立つのか、覚悟は決まりましたね。新しい生活に向けてさらなる再構築を目指すみなさんへ「天下の大道をいく」という言葉を贈ります。私が最初に3年生の担任をした20年前に知ったものです。まっすぐに、ひたむきに、堂々と、新しい時代を切り開いていってください。

最後になりましたが、保護者のみなさま3年間本当にありがとうございました。至らぬことが多々あったと存じますが、今後も引き続き松江北高校の応援をよろしくお願いたします。



●3R 担任 吉田 みずほ

よく、島根県民は(特に出雲人は)保守的だと言われます。こういうステレオタイプな物の見方はよくないのかもと思いますが、私自身はまさにこれに当てはまっていると思っています。保守的で環境が変わるのが大嫌い、新しいことにチャレンジする時は尻込みするし、部屋の模様替えすらしたくない(…ん?これは単に面倒くさがりだから?)。

そんな私は、皆さんと過ごしてきた3年間、本当に素直で純粋な人が多いことに何度も助けられたと思います。でも、時々「ちょっと素直すぎるのでは」と心配になったり、「失敗を恐れて小さくまとまっているのでは」と感じたりすることもありました。

皆さんが進んでいく先には、新しい世界が広がり、たくさんの新しいことが待っています。どうか、様々なことに大胆に積極的に挑んでください。失敗することもあるかもしれませんが、取り返しの付かないような大失敗なんてきっと滅多にありません。そうやって様々な経験を積み、成長した皆さんの姿を見ることが出来る日を楽しみにしています。私も「脱保守派」に向けてちょっとだけ頑張ろうかな。

卒業おめでとう!

●4R 担任 木村 泰之

「俺、先生になるわ、2人も一緒になろうで」
 高校3年生の春。帰り道にAがFと私に言った。自分の夢を公言できるってすごいと思い、私も初めて自分の夢を言葉にした。夢が目標に変わった瞬間だった。10年たち3人も教員になった。何かあれば今でも相談している大切な友達。

「シンプルに考えると良い方向に向かうことが多い」
 大学でのサッカー一部の監督に言われた言葉。サッカーはカオスで複雑なスポーツだが、基礎や基本に立ち返り、シンプルに考えることの大切さを教わった。上手いかわからないときには、一番大切なことは何か、シンプルに考えるようにしている。

「これからの社会は…」「今後求められる力は…」などのフレーズを聴くたびに表現できない気持ちになる。漠然とした社会で私たちや教え子たちが生きていくと思うとどうすればよいのかと…。でもシンプルに考えると、どんな社会でも大切なことは、孔子の時代から変わらないのだと思う。人を大切に、自分も大切にすること。私もこれからも高校時代の友人は大切にすし、みんなとの出会い、そしてこの3年間も大切にします。卒業おめでとう!

●5R 担任 門脇 重光

卒業おめでとうございます。
 これから君たちが生きていく時代は、様々な面でグローバル化が広がり、ICTなど科学技術が著しく発達し、それに伴って社会構造が大きく変化していきます。不確実な時代、先が見えない時代に突入していきます。様々な国の様々な考え・思想をもった人々と付き合い、また、AIとも付き合っていくかなくてはなりません。

そういう社会で生きるために自分の中にしっかりとしたぶれない1本の芯をもって欲しいです。その芯をもとに自分の器を大きく育ててください。君たちがどこに行き、誰と出会い、どんな経験をするか。どんなことを好み、どんなことに怒りを感じ、どんなことを思うのか。その1つ1つが君たちの器をつくっていきます。

最後に「どんな道も正解 どんな結果も合格」どんな人間も、自分が思っている以上のことができます。迷うこともあるかも知れませんが、後悔のない人生を送ってください。君たちが選んだ道ならば、どんな道を選んでも正解です。正解にしていくのは自分自身ですから。幸せ多い人生を送ってくれることを心から願います。

●6R 担任 田中 求

『地の塩、世の光』

卒業おめでとうございます。皆さんとは実に、3年間の付き合いでした。自分自身は3年間連続して一つの学年を持つことがあまりないので、思い入れもひとしおです。こう書きながらも、皆さんが卒業した後の空っぽの教室、これからなくなってしまおうとくさんのこと — 朝礼や席替え、掃除の時間、そして何より授業 — を思うと、今(2月中旬)からさみしくなりませぬ。何をこれから心の支えにして生きたいのか…

皆さんは、3年間を通じて、限りなく気持ちのいい人たちでした。一度たりとも不愉快な気持ちになったことはありません。やさしく、思いやりに満ち、互いに対して寛容な姿、それでいてやらなければならないことに全力で向かう姿を3年間見続けることができたのは、何よりも嬉しいことです。

現在の世の中、加速度的に非寛容度を増している世の中で、皆さん一人一人が「地の塩、世の光」として素晴らしい社会を実現していく原動力になると信じています。

時折読む聖書から、最も好きな言葉を、これからの皆さんに送ります。
 「自分の中に塩を持ち、互いに平和に過ごさなさい。あなたたちの光を人々の前で輝かせなさい。」
 また会いましょう!

●7R 担任 樋野 大輔

あっという間の3年間だったでしょうか?卒業おめでとうございます。毎年この時期になると「卒業できることは当たり前のことではない」という思いを強くします。君たちが勉強や部活動等の様々な活動を頑張ったことは間違いありませんが、一方で君たちの頑張りだけでは卒業の日を迎えられなかったことも間違いなく思われます。少し想像すれば分かると思いますが、この3年間にどれだけ多くの人が君たちを支え、どれだけ多くの人が君たちのために動いてくれたでしょうか?お世話になった人に感謝の気持ちを伝えることはとても大切なことだと思います。先日、某雑誌で「若い人がお礼を言わない」という記事を読みました。気持ちは言葉や行動にしないと伝わりません。最も簡単なのが「ありがとう」と言うことです。これからの人生でも毎日のように人のお世話になるでしょう。その際にはきちんと「ありがとう」と言う人になってほしいものです。そして、せっかくならば気持ちを込めて言ってほしいです。気持ちがこもっているか否かは相手に簡単に伝わります。ちなみに、お礼を言っても、心では感謝していないことを「お礼お礼詐欺」と呼ぶ人もいるそうですね。パナソニックの創業者である松下幸之助氏は、著書の中で「感謝の心が高まれば高まるほど、それに正比例して幸福感が高まっていく」と述べています。大変素晴らしい言葉で、私も重要性は分かっているつもりですが、なかなか実行できていません。「し(知)っていること」と「していること」はなかなか一致しないものですね。そろそろこの原稿も終わりが近づいてきました。終わり方を色々考えましたが、やはりこのような文章を書く機会を頂いたということに「感謝」です。お陰様で『縦読み』というものにチャレンジできました。ありがとうございました!!